

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	交通安全施設事業					事務事業コード	03804
部 名	都市建設部	課 名	まちづくり推進課	係 名	交通政策係	部課コード	050100

1. 事業概要

総合計画コード	5231	5211	5233		
事業年度	年度 ~ H	年度	事業類型	○ソフト事業	●ハード事業
法令等の義務付け	○法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 <根拠法令等(法律、条例、要綱など)> ○義務と任意の両方を含んでいる事業 ●任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務				
めざす目的成果	交通安全施設が適切に整備され、市民が安全に通行できている。				
事業内容	外側線・グリーンベルト等の新設、復旧を実施し通行帯を明確にする。 見通しの悪い交差点等に道路反射鏡(カーブミラー)を設置し、車両等の交通安全を確保する。 地点名標識、警戒標識等の設置。歩道橋の維持管理、修繕。				
事業手法	☐ 市の完全な直営 ☒ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☐ 補助金交付 交通事故発生箇所等を警察、関係機関と連携し、道路区画線の復旧を実施している。また、市民(自治会・小学校等)からの要望を受け実施している。				

2. 実施結果

H28年度の 事業の実施内容			道路区画線(外側線等表示)7,836m グリーンベルト等のカラー表示288㎡ 道路反射鏡設置 21基								
			単位:千円		H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込		
投入 コスト	a 事業費[イ]~[ホ]				13,763		12,024		17,985		
	財源内訳	[イ]国庫支出金			11,345		12,024		12,157		
		[ロ]県支出金									
		[ハ]地方債									
		[ニ]その他									
		[ホ]一般財源			2,418				5,828		
	b 人件費				5,862		7,328		7,328		
総コスト(a 事業費 + b 人件費)				19,625		19,352		25,313			
投入労働量		常勤職員等(人工)		0.80 人		1.00 人		1.00 人			
		一般職非常勤職員等(時間)		時間		時間		時間			
a 事業費 (H28年度決算見 込)の執行内訳		需用費 4,127千円 委託料 1,370千円 工事請負費 12,488千円									
指標名			単位	H28目標・計画		H29目標・計画		H30目標・計画		最終目標・計画	
				(H28実績見込)		(H29実績見込)		(H30実績見込)		目標年度	
活 動	①	外側線等路面表示	m・ ㎡	8,155m・110㎡ (7,836m・288㎡)		8,155m・110㎡ ()		8,155m・110㎡ ()		H	32 年度
	②	道路反射鏡設置数	基	25 (21)		30 (—)		30 (—)		H	32 年度
成 果	①	年間交通事故発生件数(人身事 故)	件	320 (363)		290 (—)		260 (—)		H	32 年度
	②			()		(—)		(—)		H	年度

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☒ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☒ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☐ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☒ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☐ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 市道の交通安全対策に向け道路区画線、路面表示、道路反射鏡の整備は必要である。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
	☐ 活動指標の目標を達成した ☐ 成果指標の目標を達成した ☒ 指標に表れない事項について目標を達成した ☐ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 道路区画線(外側線等路面表示)設置と道路反射鏡設置ともに目標数値までは達成していないが、交通安全対策上の要望箇所はほぼ達成できた。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 通学路や見通しが悪い危険な交差点などの交通安全対策を、子どもや高齢者など交通弱者に配慮して工事を実施した。 参加と協働: 市民からの要望箇所に、カーブミラーを設置、また路面表示のひき直しを実施した。 経営的な視点: ベンガラ舗装を単価の安いカラー舗装に代えて実施した。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☒ I 見直す余地がない	☐ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☐ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 本来であれば、長期的、中期的な視点に基づき、配置や予算に対する事業計画を立てて実施するのが良い方法とは思われるが、対応に緊急性があることから、現状の手法で対応を行う。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
今後の取組方針	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		☐ A 見直して継続 ☒ B 現状のまま継続		
	見直しの方向性	☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期: H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ その他 (実施時期: H 年度)		
		方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針) 道路反射鏡については、要望に基づく設置のみで予算額をほぼ支出してしまい計画を立てて設置する手法とはなっていない。また、外側線・グリーンベルトについても要望箇所と既設修繕がほとんどであり、計画を立てて実施することが難しい。平成29年度も予算の範囲内で優先度とバランスに配慮しながら事業を実施していきたい。		